



奈良は相撲の発祥地

相撲に関する史跡がたくさん残っています。〔実践のひろば〕 p.47～

写真・文：牧野 満



腰折田伝承地

香芝市磯壁・良福寺付近

『日本書紀』垂仁天皇七年七月七日の条に、「當麻郷には當麻蹶速という勇敢剛力がいて、天下に敵なしと豪語していた。天皇が群臣に力くらべ(角力)をするものを求められた。そこで、出雲の野見宿禰が召され、兩人に力くらべをおさせになった。たちどころに蹶速は腰の骨を折られて死んだ。これにより、蹶速の領地が没収され宿禰に賜った」とあります。江戸時代に編纂された地誌『天和志』には、「腰折田は良福寺にあり」とみえ、兩人の決闘の地として今に伝えられています。この伝承は、奈良時代に宮中で始まる相撲節会(七月七日)の起源とされています。なお、葛城市當麻には、伝當麻蹶速塚とされる五輪塚が祀られています。

腰折田(香芝市良福寺) 右：説明パネル付近にはまわしを締めた、洗ったとされる「まわし池」(香芝市狐井)もある。



相撲館「けはや座」(葛城市當麻町)
相撲の資料館、館内には同サイズの土俵がある。



相撲神社(桜井市穴師)
歴代の横綱も訪れている。



當麻蹶速塚(葛城市當麻町)



野見宿禰塚跡(桜井市出雲)